

平成29年度第1回江別市スポーツ推進審議会開催結果

1. 開催日時

平成29年8月30日（水）午後3時30分～午後4時15分
江別市教育庁舎大会議室

2. 出席者

- ・スポーツ推進審議会委員：10名
金内晴夫 会長、花井篤子 副会長、小林照美 委員、小野善弘 委員、
加藤隆明 委員、山下和人 委員、松田和子 委員、佐藤敦子 委員、袴田丈晴 委員
（欠席：原大輔委員）
- ・教育委員会事務局：7名
渡部教育部長、萬教育部次長、三浦スポーツ課長、
板東スポーツ係長、渡辺スポーツ振興担当主査、中島主任

3. 開催結果

（1）委嘱状交付

改選のため、開会前に教育部長から出席委員に委嘱状を交付。

（2）開 会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

（3）教育部長挨拶

教育部長からあいさつ

（4）委員・職員紹介

（5）会長・副会長の互選

スポーツ課長から、条例により委員の互選により会長、副会長を選出することを説明。

会長の互選について、松田委員より金内委員との推薦があり、会議に諮り金内委員が会長に互選された。

副会長の互選について、松田委員より花井委員との推薦があり、会議に諮り花井委員が副会長に互選された。

(6) 報告事項

報告事項(1) 平成28年度スポーツ関係事業実施報告について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ係長：

はじめに、教育委員会が行った事業についてご報告する。

まず、学校体育施設開放事業であるが、社会人体育団体学校開放事業は、学校運営に支障のない範囲で、体育館及びグラウンドを市民のスポーツ団体の活動場所として提供する事業で、平成28年度は、25小中学校を140団体に開放し、利用者数は延べ15万2,096人であった。次の体育施設開放事業(学校体育館土曜開放)は、10の小学校の体育館及びグラウンドについて、土曜日の午前を地域の児童生徒のスポーツ活動場所として提供するもので、利用者数は延べ3,957人となっている。また、体育施設開放事業(学校プール開放)では、夏休み期間中に15の小学校のプールを開放し、利用者数は、延べ9,924人であった。社会人体育団体と土曜開放は、前年に比べ利用者が増加している。

次に、スポーツ普及奨励事業であるが、青少年スポーツ賞顕彰については、スポーツ賞は高校生以下を対象にして全国大会で3位以上を基準としており、1個人、1団体を表彰している。スポーツ奨励賞は高校生以下で全道大会1位を基準としており、31個人、13団体を表彰している。教育委員会表彰は小中学生で全道大会2位又は3位を基準としており、16個人、12団体を表彰した。次のスポーツ大会出場奨励金交付は、予選を経て全道大会規模以上の大会に出場する市民に対し、負担の軽減を図る目的で奨励金を支給するもので、国際大会では個人8人に、全国大会では個人66人と18団体に、全道大会では個人60人と5団体に、それぞれ奨励金を支給したものである。

次に、スポーツ振興に関する事業であるが、屋外体育施設管理運営事業は、はやぶさ運動広場内の少年野球場、テニスコートなどと、第二中学校に特設するスケートリンクの管理運営を江別市スポーツ振興財団に委託したものである。スポーツ大会等振興補助事業は、江別市スポーツ振興財団が実施するスポーツ大会や健康体力づくり指導相談などの事業に係る補助金で、4,475万1千円を交付している。

次に、体育団体補助金については、江別市体育協会と江別市スポーツ少年団が実施する事業に対する補助金である。

次に、地域スポーツ活動活性化促進事業は、学校レクリエーションや自治会などにおいて、スポーツ推進委員の指導のもと軽スポーツを行い、この普及を目的とする事業で、4件、延べ76名を対象に実施した。

2ページの全国大会等開催補助事業については、市内で開催されたマスターズホッケー、軟式野球、社会人9人制バレーボールの3つの全国大会に対して、開催地として補

助金を交付したものである。

次に、3市交流スポーツ大会開催事業は、札幌市厚別区と北広島市との持ち回りによる交流事業であるが、平成28年度は江別での開催が無かったものである。

次に、スポーツ合宿誘致推進事業については、合宿誘致にかかる情報収集・PR活動を行うとともに、平成28年5月に江別市スポーツ合宿誘致推進事業実施要綱を定め、合宿に訪れる道外の団体に対し、空港から宿泊地・練習会場への送迎サービスの提供、道立野幌総合運動公園などの会場使用料の補助、江別市特産品の提供といった支援を行ったものである。平成28年度の実績としては、野球・バスケットボール・フィールドホッケー・シンクロナイズドスイミングのチームが訪れ、延べ7団体、204名に対し各種支援を行った。また、それぞれ地元チームとの交流試合などを実施していただき、本市にとっても有意義なものとなった。

次のスポーツ施設改修整備事業について、まず体育施設整備更新事業であるが、4つの体育館、3つの屋外体育施設に係る修繕工事費及び備品購入費となっている。大きなものとしては、市民体育館のバスケットゴール1組の更新を行った。体育施設耐震化については、大麻体育館第1体育室の耐震改修工事及び同館トレーニング室棟耐震改修実施設計委託に要した経費である。市民体育館改修整備事業は、卓球場の天井改修と屋上防水工事の改修工事を行ったものである。大麻体育館改修整備事業は、耐震補強工事と併せて実施した、第1体育室の天井断熱材改修と屋上防水工事に要した経費である。

最後に、体育施設の指定管理事業については、市民体育館など屋内4体育施設は一般財団法人江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場及び森林キャンプ場についてはエコ・グリーン事業協同組合が、それぞれ指定管理者として管理運営を行ったもので、指定管理料は合わせて1億9,492万2千円であった。

3ページから7ページにかけては、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が行った事業となっている。説明した指定管理に係る事業や、スポーツ大会等振興補助金に係る事業、自主事業などを行っているもので、事業内容は記載のとおりである。各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催したほか、健康体力づくり指導相談事業、スポーツ指導者養成事業、体育施設管理運営事業を実施している。

(質疑等 → なし)

報告事項(2)平成28年度スポーツ施設利用状況について

・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ係長：

資料の8ページは平成24年度から平成28年度までの5年間の当市の各体育施設の利用実績である。

平成28年度の利用者数について、1の屋内施設では4体育館合計で平成27年度の利用者数を上回り、前年度比1万1,020人増の50万3,551人となった。

2の屋外施設については都市公園内の少年野球場やテニスコートなどの利用者数であるが、合わせて10万4,274人と、前年までに比べ増加している。

3の森林キャンプ場についても1万1,576人で増加傾向となっている。9ページに記載した4のあけぼのパークゴルフ場については、2万9,185人の利用でやや減少傾向となった。

このほか、特設スケートリンクと学校体育施設開放事業の実績は記載のとおり。

最後に、当市のスポーツ施設利用者の総合計を9ページ最下段にお示ししているが、82万6,423人となり、減少傾向から増加に転じた27年度よりも更に増加する結果となった。

(質疑等 → なし)

報告事項(3)平成28年度スポーツ関係事業計画について

- ・スポーツ課長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ課長：

第5期江別市スポーツ推進計画は、第6次江別市総合計画の個別計画と位置づけ、計画期間を平成26年度から平成30年度までの5年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツの実現を目指すために策定したものである。

本計画の推進には、各施策の実施状況や達成状況、効果・課題について、PDCAサイクルの考え方に基づいて点検・評価を行い計画に反映させていくこととしているため、平成28年度における「成果指標」の結果と今後の推進の方向性について、ご報告申し上げます。報告する内容は、太枠で囲まれた部分である。

資料の10ページ「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」であるが、平成28年度は、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供した。各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携としては、学校開放事業など、スポーツ活動機会の提供を行ったものである。スポーツ教室の受講者数は前年を若干下回ったが、安定した受講者数を確保している。学校開放事業は各団体の登録人数は減少しているものの、利用人数は増加しており、各団体の活動は活発な状態である。週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は40.0%と上昇し、年代別にみると高年層の方の割合が高くなっている。今後の方向性について、スポーツ活動に親しむ市民割合は上昇しており、これを確実なものとするため、今後もより多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めていく。

11 ページ「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」であるが、平成28年は、地域スポーツ活動の活性化のため体育協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、軽スポーツの指導、普及を行う軽スポーツの出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。各スポーツ団体やスポーツ少年団は少子高齢化の影響がある中、会員数は一定の人数を保っており、それぞれの団体は活発に活動し、全道大会や全国大会でも多くの選手が活躍している。スポーツ機会が充足していると思う市民割合は61.6%と上昇し、年代別で見ると若年層と高年層の方が充足していると感じている割合が高くなっている。今後の方向性として、活動団体の活性化促進のため、体育協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援を継続して行う。

次に「基本目標Ⅲ：スポーツ環境の整備・充実」であるが、平成28年度は、災害時の避難所としても重要な社会体育施設の計画的な改修として、大麻体育館の第一体育室耐震改修工事及びトレーニング室棟の耐震改修実施設計を行ったほか、施設の修繕及び備品の更新等の環境整備に努めた。市内の屋内体育施設は建築から30年以上経過したものが多く、老朽化対策が課題となっているため順次改修整備を進めており、その結果、スポーツ施設整備の満足度は上昇し60.0%となった。今後の方向性については、平成29年度も引き続き大麻体育館の耐震化、長寿命化を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行う。

(質疑等 → なし)

報告事項(4) 平成29年度スポーツ関係事業計画について

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○スポーツ係長：

まず、12ページに記載したのは、今年度において教育委員会が行う事業である。ここでは内容変更のあった事業、新規の事業についてご報告申し上げます。

表の中段やや下の全国大会等開催補助事業については、記載のとおり、今年度は対象となる全国大会の開催がないため、予算額はゼロとなっている。

次の3市交流スポーツ大会開催事業は、札幌市厚別区・北広島市・江別市の交流事業であるが、今年度は江別市でパークゴルフ大会を開催するため、その経費を記載しているものである。

続いて2行下のパラ・スポ体験会開催支援事業は新規事業である。障がい者スポーツを実体験できるイベントへの補助金交付により、市民の障がい者スポーツへの理解を深め、すべての人がスポーツに親しむための意識醸成を図る事業となっている。

次のスポーツ施設改修整備事業のうち、体育施設整備更新事業は、昨年度で市民体育

館のバスケットゴール更新が終了したため、通常の維持補修経費となっている。体育施設整備更新事業（体育施設耐震化）は、大麻体育館トレーニング室棟の耐震改修工事を行うもので、本工事をもって大麻体育館の耐震化が完了する。現在工事中で、トレーニング室棟の各部屋は工期に応じて10月末まで部分休館となっている。市民体育館改修整備事業は、高圧変電設備の更新と、法令に基づき重油地下タンクの内部コーティング工事を行うものである。大麻体育館改修整備事業は、トレーニング室棟の耐震改修工事にあわせて、軽スポーツ室の屋上防水工事と床張替え工事を行うものである。

13ページから16ページにかけては、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が行う事業である。指定管理事業、受託事業、補助事業につきましては、それぞれ記載のとおり、前年度同様の事業を予定している。平成29年度は屋内体育施設の指定管理の4年目となり、受講者ニーズを踏まえたスポーツ教室の改善が行われている。また自主事業では、好評であったこれまでの事業を継続し、更に新規で道立野幌総合運動公園と連携した市民スポーツラリーを実施するなど、内容の充実を図っていくとお聞きしている。なお、これらの詳細については、当該財団の広報紙をお配りしたのでご参照願いたい。

（質疑等 → なし）

（7）説明事項

説明事項（1）第6期江別市スポーツ推進計画の策定について（別添）

- ・スポーツ課長から、資料に基づき説明した。

○スポーツ課長：

別添の資料を元にご説明申し上げます。まず策定の根拠について、江別市スポーツ振興計画は、スポーツ基本法第10条第1項に基づき、国のスポーツ基本計画を参酌して、市町村がその実情に即したスポーツの推進に関する施策について定める計画である。

計画の位置付けについては、上位計画である「江別市総合計画」をはじめ、江別市の各種計画や指針との整合性を図りながら、また国や道の動向も見極めるとともに、まちづくり市民アンケートや市民の要望・意見を参考とし、江別市の地域性を踏まえた計画として策定するものである。

計画期間については、平成31年度から平成35年度までの5年間で、現計画の計画期間は、平成26年度から平成30年度までの5年間で終了する。

次に、策定方法については、江別市スポーツ推進審議会による協議を中心に策定する訳であるが、現行の11名のメンバープラス、より市民の意見を反映させるため、29年度に市民公募委員を新たに募集する予定である。

その他、まちづくり市民アンケートの活用、庁内外関係各所への調査票送付、市民意

見の反映としてパブリックコメントを実施したいと考えている。

次に策定スケジュールについては、次のページの「第6期 江別市スポーツ推進計画（H31～35）策定スケジュール（案）」をご覧願いたい。この表は、横軸が年度と月で、縦軸が策定に係る協議・検討会議等の項目となっており、平成29年度と30年度の2ケ年で作成するスケジュールとなっている。まず一番上の行、計画策定の主な動きとして、今年の5月～7月に策定スケジュール（案）を作成し、9月に策定方針を決定、10月中旬から来年の1月までに、現計画である第5期の評価を実施、来年の2月には、計画策定について教育委員会からスポーツ推進審議会に諮問されることとなる。その後、4月～6月までに現状の分析・課題の整理、推進目標、推進項目を検討し、計画素案の協議を行いながら、7月には、計画素案審議原案を決定する予定である。9月～10月にかけてパブリックコメントを実施し、募集結果・意見を整理したものをスポーツ推進審議会にフィードバックし、計画案を協議したいと考えております。12月には教育委員会へ答申し、平成31年1月頃に計画を決定する予定となっている。

次に、この表の一番下の行、スポーツ推進審議会委員の市民公募とパブリックコメントであるが、より市民の意見を反映するために、今年度はスポーツ推進審議会のメンバーとして市民公募委員を追加募集する予定である。今年の12月に条例改正し、公募を12月～1月に実施、来年の2月に選考・委嘱を行う予定となっている。また、計画素案に係るパブリックコメントは、来年の9月頃に実施する予定である。

次のページは国・北海道・石狩管内他市の体系図比較について記載したものである。左の行から、国・北海道・江別市・恵庭市の策定状況を掲載している。特に一番左の行、国のスポーツ基本計画は、今年の3月に新しく策定された計画であることから、江別市の計画は、国のスポーツ基本計画を参酌して、江別市の実情に即した計画にしたいと考えている。

国の第2期スポーツ基本計画・概要については、次ページ以降に記載されているのでご覧願いたい。内容の概要としては、2020年のオリンピックを意識した内容となっており、女性の活躍促進や障がい者スポーツの振興が謳われている。

その他の資料として、スポーツ基本法（抜粋）、現行の計画である第5期江別市スポーツ推進計画（別冊）、市内スポーツ活動の状況（別冊）、江別市内スポーツ関連施設マップを添付したので、今後の計画策定に向けて後ほどご覧願いたい。

（質疑等）

○議長（金内会長）：

市民公募委員を追加募集予定とのことであるが、何名を公募する予定か。

○スポーツ課長：

今後検討をしていくこととなるが、1～2名を想定している。

(8) その他

○議長（金内会長）：

その他、何かないか。

○スポーツ係長：

次回の審議会の開催は、第6期江別市スポーツ推進計画策定スケジュール（案）に記載のとおり、11月頃を予定している。

○議長（金内会長）：

今回は11月頃を予定ということで、それまでの間に委員から質問等があれば事務局に連絡願いたい。

(9) 閉 会

午後4時15分 終了